

人も牛も健康に～地球に優しい循環型酪農を目指して～  
鈴木牧場(広尾町)

【鈴木牧場のみなさん】

## 【組織等の概要】

- 代表者：鈴木敏文
- 従事者数：4名(家族3名、酪農実習生1名)
- 飼養頭数：120頭  
(経産牛60頭、未経産牛49頭、肉用牛11頭)
- 経営概要：生乳・牛肉(グラスフェッドビーフ)販売、  
鶏卵(有精卵)生産
- ホームページURL：<https://www.hiroo-suzukifarm.com/>

## ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 鈴木牧場では、平成20年、22年に発生した家畜伝染病(牛サルモネラ感染症)により、甚大な経済的損失を負った。
- ◆ 「予防は最大の治療」と考え、牛の健康管理を第一に、粗飼料生産・飼養管理の作業内容を改善。現在では、完熟させた発酵堆肥を基肥とし、農薬・化学肥料を使用せずに栽培した牧草を牛に給与。
- ◆ 平成27年から、町内の漁協から養殖で使用する海水を入手し、飼料としての塩づくりを開始。完成したミネラル分の豊富な塩は、牛に給与するほか一般消費者や管内の食品製造業者に販売。
- ◆ 令和2年、3年に有機JAS認証を取得。

## 【取組の成果】

- 農薬・化学肥料を使用しない牧草生産を実現  
(有機JAS認証の範囲内で購入圧べんとうもろこしを少量給与。⇒サイレージ用デントコーンの作付け不要)
- 有機JAS認証を取得  
〔令和2年〕有機飼料(牧草、デントコーン)  
有機農産物(キクイモ)  
〔令和3年〕有機畜産物(生乳・牛肉・鶏卵)
- 疾病牛の発生割合及び治療経費が8割減少  
〔平成20年⇒令和2年〕
- 有機酪農を実践したことで、乳質が向上し、ゆとりある牧場経営を実現
- 農林水産省「サステナアワード2020伝えたい日本の“サステナブル”」実践賞を受賞

## 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 牛サルモネラ感染症が発生したことで…
  - ✓ 治療で抗生剤を投与している乳牛から搾る生乳は出荷停止となるため、収入が減少。
  - ✓ 医薬品代、消毒用の薬品代、検査料、保菌牛の淘汰等にかかる支出が増加。
  - ✓ 終息するまで5か月を要し、経営状況だけでなく精神的にも厳しい日々が継続。
- 獣医師の妻・なつきさんと、牧場内の作業を見直し、3つの改善策を実施。
  - ✓ 良質な粗飼料生産の実践
  - ✓ カウコンフォート(乳牛の快適性)の追求
  - ✓ 乾乳期における牛群管理の改善
- 有機酪農により、飼養頭数・1頭当たり乳量は減少したが、放牧等で労働力の削減を実施。

## 【有機JAS認証取得の生乳等】



## 【海水から手作りした塩】



## 【今後の展望】

- 「すべては健康のために」との思いから、循環型農業を実践。これからも新しいことへの挑戦を継続。
- オーガニック牛乳の販売開始を目指す。  
〔令和4年予定〕
- 牛の健康のために始めた塩づくりを地場産品として、地域活性化に貢献できるように継続。